

## 【参考2】

### 高齢者の外出及び移動に関する調査

#### □調査概要

- ・調査タイトル:「高齢者の移動に関する意識調査」
- ・調査対象 :全国の65歳以上の男女450名とその子世代(40~50代)150名の計600名(電動車いす利用150名、車いす利用150名、電動車いす・車いす非利用150名)  
※以下、「電動車いす利用」「車いす利用」「非利用」と記載
- ・調査期間 :2020年9月7日(月)~9月9日(水)
- ・調査方法 :インターネット調査

#### ■「電動車いす利用」は「非利用」に比べ、コミュニティ参加に対して積極的な傾向

コミュニティ参加に関する質問では、普段からコミュニティ参加している人の割合は、全体平均が55.6%、「電動車いす利用」が64.7%、「非利用」が52.7%となり、「電動車いす利用」が高いという結果に。電動車いす利用者の積極的にコミュニティ活動をしようとする姿勢が伺えます。

また、コミュニティ参加に伴う活動時間(外出して自宅に戻るまでの時間)についても調査を行ったところ、全体平均で43分、「電動車いす利用」が約54分、「非利用」が約37分となり、「電動車いす利用」の方が、活動時間が長くなるという結果が得られました。

#### <コミュニティ参加について>

項目	全体 (N=450)	電動車いす利用 (N=150)	非利用 (N=150)
参加率(%)	55.6	64.7	52.7
コミュニティ参加に 要する活動時間	43分	約54分	約37分

電動車いす利用は  
非利用に比べ  
+12ポイント

電動車いす利用は  
非利用に比べ  
+17分

※平均移動時間:コミュニティ参加のために、外出してから自宅に戻るまでの時間

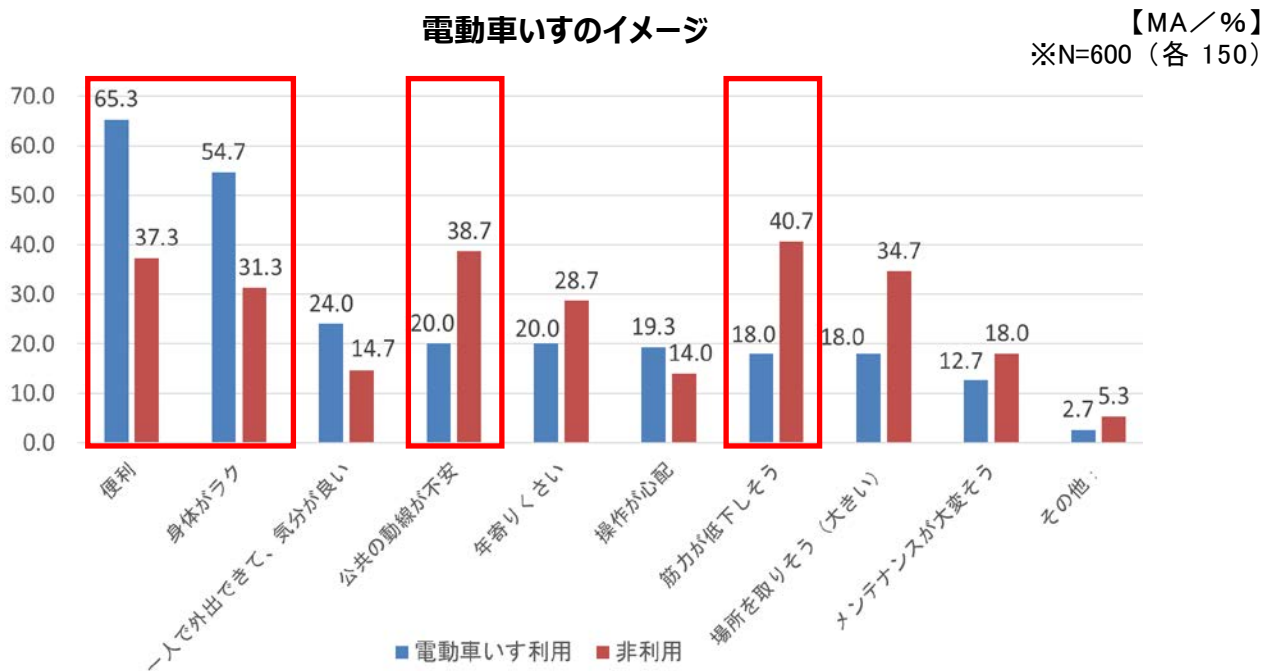
※参加率:全体のうちコミュニティ参加の移動時間が「0分」と回答した方を引いた数

## ■ 電動車いすを利用しているか否かで、電動車いすに対するイメージにギャップが発生。

電動車いすのイメージに関する質問では、「電動車いす利用」においては“便利”というイメージを持つ割合が 65.3%でトップ、次いで“身体がラク”というイメージを持つ割合が 54.7%と電動車いすの利便性の高さを評価する回答が上位になりました。

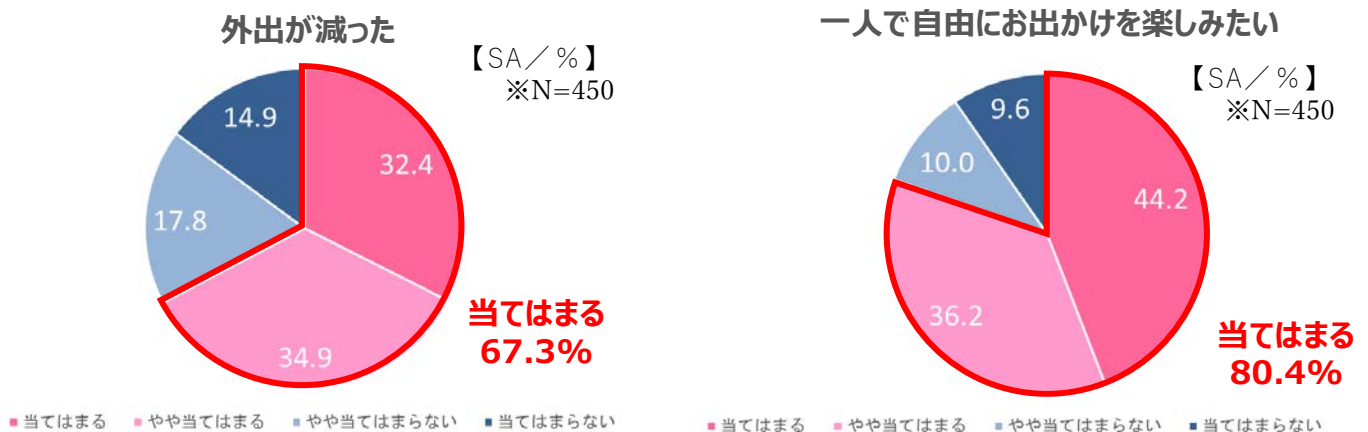
一方で、「非利用」においては“筋力が低下しそう”というイメージを持つ割合が 40.7%、続いて“公共の動線が不安”というイメージを持つ割合が 38.7%と、電動車いすを利用している否かでイメージに大きなギャップがあることが分かりました。

この結果について鈴木先生は、「電動車いすを利用すると安全性や利便性の高さから移動に対するハードルが下がることが考えられます。そのため、電動車いすを移動手段として利用したことのある人はメリットを実感しているのかもしれませんが。」とコメントしています。



## ■ 外出が減ったと回答する人が 67.3%に及ぶ一方、高齢者の方々が求めるお出かけは「1人で自由に」

「外出が減った」と回答した人の割合は、全体の 67.3%を占める一方で、お出かけに対する意識の質問では、「1人で自由にお出かけを楽しみたい」と答えた人が 80%を超える結果となり、自由な外出に対するニーズの高さも明らかになりました。



## ■自動車の運転が不安な人の電動車いすの利用意向は 37.6%と、不安ではない人に比べ 16 ポイント高い

自動車の運転不安の有無と電動車いすの利用意向についての調査では、運転不安がない人のうち「今後電動車いすを使ってみたい」と答えた人が 21.6%だったのに対し、運転不安がある人の中で「今後電動車いすを使ってみたい」と答えた人は 37.6%と 16%も高い結果となりました。運転不安がある人の方が不安のない人よりも電動車いすの利用に興味を持っていることがわかりました。この結果について鈴木先生は、「高齢化社会が進むにつれ運転不安を抱える人の増加が予想される中で、新しい移動手段として電動車いすのニーズが高まる可能性があります。」とコメントしています。

